

国語科学習指導略案

4年2組 30名 指導者 星原貴光

本授業では、以下のような検証を行うものである。

自分の調べたことや考えたことがはっきり伝わるよう内容や構成を工夫して、分かりやすい記事を書くことができたか。

1 単元 伝えたいことをはっきりさせて書こう 「新聞記者になろう」

2 指導計画 (総時数 16時間)

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
課題を つかむ	1 子ども新聞を読み、自分も新聞を書いてみたいという思いをもつ。	1
	2 学習のめあてを決め、学習計画を協議する。 記事や紙面を工夫して、分かりやすく読みたくなる新聞を作ろう。 【関：学習への見通しをもち、意欲的に新聞を作ろうとしている。】	1
情報をもとに 読み取る	3 新聞の内容と形式を調べ、どんな記事があるか、どんな書き方をしているかなどについて、気付いたことを発表し合う。 【書：1つの紙面には色々な内容があり、それぞれの記事には書き方の違いがあることなどに気付いている。】	2
	4 どんな新聞を作るか、どんな話題を載せるかを考える。 【書：相手・目的意識を明確にもち、取り上げる話題や記事の量等を決め、作りたい新聞のイメージをもっている。】	1
	5 取り上げた話題について、取材する。 【書：事実を正確に伝えるために、落とさずに書くべき事柄をとらえ、取材したことを簡潔にメモに取っている。】	3
	6 新聞の特徴に基づいて、記事を下書きする。 【書：記事は、見出し、リード、本文の3つで構成されていることなど、文章の組み立てや書き方の違いを考えながら、下書きしている。】	5 本時
主体的に 表現する	7 記事を推敲したり、割り付けを工夫したりして、新聞を仕上げる。 【書：記事の分量や写真・絵の大きさ、入れ方などについて意見を出し合い、読む人にとって、紙面を分かりやすく工夫している。】	2
	8 仕上がった新聞を読み合い、感想を交流する。	1

3 本時 (9/16)

(1) 目標

新聞の特徴に基づいて、自分で調べたことなどを読む人に分かりやすく報告する記事を書くことができるようにする。(書ウ)

(2) 評価規準




見出し、リード、本文の3つのまとまりをとらえ、伝えたいことがはっきり分かるように工夫して、記事を書いている。 【書く能力】

(3) 指導に当たって

導入の段階では、ひと目で新聞の内容がとらえられることを「速読クイズ」で実感させ、どのように工夫して書いてあるのか、もっと詳しく調べてみたいという思いを膨らませていく。

展開の段階では、いくつかの記事を比較したり、分析的に読んだりさせながら、どこに分かりやすさのコツがあるのかグループや個で調べさせていく。また、みんなが見付けたコツを形式面と内容面の2つに分類させていく過程で、まとまりで書くことのおよさや「見出し」「リード」「本文」などの学習用語も身に付けさせていくようにする。

終末の段階では、見付けた書き方のコツを生かして、試しの記事を書かせる。この活動を通して、本時の学習の成果を振り返らせるとともに、書くことへの自信や楽しさを味わわせ、さらには、国語科での学びが実生活の中で生きてはたらくことを実感させていくようにする。

時	過程	主な学習活動と教師の手立て・評価	
(分) 5	導入	1 「速読クイズ」に挑戦し、なぜ、新聞は短時間でも内容をとらえることができるのか、自分の考えを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・全部を読まなくても、ひと目で何が書いてあるか、大体分かったよ。 ・新聞には、まだ、たくさんの書き方の工夫がありそうだね。知りたいな。 	新聞の分かりやすさを実感し、自らその書き方の工夫に気付かせることで、他にも、もっとたくさんの工夫を見付けたいという思いを膨らませるようにする。 
		2 本時の学習のめあてと進め方を確かめる。 分かりやすい記事を書くためには、どんなことに気を付ければいいのか。 3 分かりやすい記事の書き方のコツを調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・記事を比べて読むと、分かりやすさの違いがよく分かるね。 4 見つけた書き方のコツを発表する。 (1) 形式の工夫について <ul style="list-style-type: none"> ・よく見ると文字の大きさだけでなく、文字の種類や色も違うよ。 ・まとまりごとに行を変えたり、文の最初を一文字下げたりしてあるね。 ・難しい漢字には読み仮名が付いているよ。これならたくさんの人に読んでもらえそうだね。 (2) 内容の工夫について <ul style="list-style-type: none"> ・最初に伝えたいことを簡単に書いて、後から詳しく書いてあったんだね。 ・リードには、いつ・どこで・だれ(何)が・何を・どうしたかが書かれているよ。 ・記事は、見出し、リード、本文の3つのまとまりで書かれていたんだね。 	本時の終末では、見つけた工夫を書き方のコツとしてまとめ、そのコツを生かして、試しの記事を書くことを知らせておく。 分かりやすい記事と分かりにくい記事とを比較して読ませることで、形式や内容を工夫して書くことの大切さを実感できるようにする。 
30	展開	5 見つけたコツを生かして、試しの記事を書く。 6 書き上げた記事を相互に読み合い、感想を交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・こんなことでも記事になるんだね。新聞を書くってとても楽しいんだね。 ・コツを生かして書くと、伝えたいことがはっきり伝えられるんだね。 7 学習の成果をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・まとまりがはっきり分かるよう、文字の大きさなどを工夫するといい。 ・記事は、見出し、リード、本文の3つのまとまりで、3回語るように書くといい。 8 次時の学習への期待感をもたせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・いよいよ下書きだ。みんなが読みたくなる分かりやすい記事が書けそうだ。 	※ 見出し、リード、本文の3つのまとまりをとらえ、伝えたいことがはっきり分かるように工夫して、記事を書いている。 (ワークシートへの書き込み) <ul style="list-style-type: none"> ○ 書き方のコツを見付けることができている子どもには、文末表現に着目させ、直接経験した事実と間接的に見聞きしたり読んだりして得た事実とが区別して書かれていることにも気付くよう助言する。 ○ 書き方のコツを見付けられない子どもには、2つの記事を比較しやすいようヒントが書き込まれているワークシートを用意しておき、個別指導を行う。 試しの記事を書くことで、書くことの楽しさや自信を味わわせるとともに、本時の学習が生きてはたらく力になっていることを実感できるようにする。 
		10	終末